別紙1　　令和　8　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790401495		
法人名	株式会社こころの駅		
事業所名	株式会社こころの駅看護小規模多機能型居宅介護事業所		
所在地	福島県いわき市小名浜字中原17-1		
自己評価作成日	令和8年5月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

作業療法士の資格がある介護支援専門員が、個々の利用者様の疾病、心身機能や日常生活の状況、その人らしさ等を吟味してプランやプログラム作成している。

また協力医療機関との連携により、訪問診療と看護師を中心とした医療的支援の充実(訪問看護)を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

看護職や介護職等が協働し、医療的配慮が必要な利用者に対して、健康状態や生活の質を維持改善に向けるための支援に真摯に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2026/05/22(金) 18:58　心の駅　FAX番号:0246-54-5001　P.004

株式会社こころの駅 看護小規模多機能型居宅介護事業所

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念があり、掲出しているが、管理者と職員間の共有はまだ不十分であり、ミーティング等を通して周知を行っている。	理念を作っているが、管理者と職員感の共有はまだ不十分であり、ミーティング等を通して周知を行っている。	理念の管理者と職員間の十分な共有
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる	感染症蔓延等により、地域の活動や住民との交流が滞っているが、運営推進会議を通して活性化を図っていく。	感染症蔓延等により、地域の活動や住民との交流が滞っているが、運営推進会議を通して活性化を図っていく。	運営推進会議等を通した地域との交流の活性化
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法について事業所内では研修や実践を通じて一定のノウハウを積み上げているが、地域の人々に対しては今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で挙げられた課題に対し、可能な限りサービス向上へ反映している。	運営推進会議の中で挙げられた課題に対し、可能な限りサービス向上へ反映している。	運営推進会議の中で挙げられた事業所の取組内容や具体的な改善課題に対する、サービス向上への反映
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村関係者とは必要時には随時連絡を取り、協力関係を築いている。	市町村関係者とは必要事には随時連絡を取り、協力関係を築いている。	市町村関係者との密な連絡による協力関係の維持
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で定期的な身体拘束についての研修を行い、職員に周知することで、可能な限り身体拘束を行わないケアの実施に努めている。	事業所内で定期的な身体拘束についての研修を行い、職員に周知することで、可能な限り身体拘束を行わないケアの実施に努めている。	定期的な身体拘束についての研修の継続と、身体拘束をしないケア実践の継続
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内で定期的な虐待防止についての研修を行い、職員に周知することで、虐待を行わないケアの実施に努めている。	事業所内で定期的な虐待についての研修を行い、職員に周知することで、虐待の芽を見逃さず、未然に防ぐように努めている。	定期的な虐待防止についての研修の継続と、虐待を未然に防ぐ実践の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で定期的な権利擁護についての研修を行い、職員に周知することで、必要な方に対して活用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には十分な時間を取り、利用者や家族がスムーズな理解・納得を得られるように丁寧に説明するよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等を通して利用者や家族等が意見、要望を表せる機会を設けているが、運営への反映は今後力を入れていく。	運営推進会議等を通して利用者や家族等が意見、要望を表せる機会を設けているが、運営への反映は今後力を入れていく。	運営推進会議等を通した利用者や家族等の意見、要望の運営への反映
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている	日々の話し合いや打ち合わせ等を通して代表者や管理者は職員の声に耳を傾けており、運営への反映に努めている。	日々の話し合いや打ち合わせ等を通して代表者や管理者は職員の声に耳を傾けており、運営への反映に努めている。	日々の話し合いや打ち合わせ等を通した職員の声の運営への反映
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員個々が向上心を持って働けるように、職場環境・条件の整備に努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は、職員一人一人の能力を見極め、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は、職員一人一人の能力を見極め、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力を見極めた、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらのトレーニングの実践
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は地域での研修会への参加等を通して管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に担当者がご本人に要望や困り事等を傾聴し、職員間で共有することで、信頼関係構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に担当者がご家族に要望や困り事等を傾聴し、職員間で共有することで、信頼関係構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に担当者がその時点での最優先課題を見極め、柔軟なサービス対応を提案することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を一方的に介護するだけではなく、時に人生の先輩としてアドバイスをもらうなど、相互的に生活を共有する立場にある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と、本人を共に支えていく関係を構築するよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの人との面会や外出を通して、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	ご家族や馴染みの人との面会や外出を通して、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	ご家族や馴染みの人との面会や外出を通した、馴染みの人や場との関係継続の支援の実践
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性やご本人の特性等を把握して日中過ごす場の席順を検討し、利用者同士の健全な交流が促進するよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な範囲でサービス利用終了後も、経過のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	担当者会議や日常の関わりの中で、ご本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	担当者会議や日常の関わりの中で、ご本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	ご本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握の実践継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当者を中心に生活歴や生活環境、これまでのサービス利用などの情報をまとめ、関係職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日常のミーティング、面会等で本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、介護計画に反映している。	担当者会議や日常のミーティング、面会等で本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、介護計画に反映している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、介護計画に反映することの実践継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各担当や各職種が日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、共有しながら実践やプランの見直しに活かしている。		

2026/05/22/金 18:59 心の駅 FAX番号:0246-54-5001 P.007

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内の他部門とも連携し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握及び活用については現状は進んでおらず今後の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援は、可能な限り本人及び家族の希望を尊重して適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診支援は、可能な限り本人及び家族の希望を尊重して適切な医療を受けられるように支援している。	適切な医療を受けられるかかりつけ医の受診支援の継続
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の普段と違う様子などの気づきを看護職に相談し、適切な受診や看護につながるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には情報提供シートを送付したり、随時病状を確認するなど病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り」を想定した支援について一部の利用者については本人・家族と話し合いを行い、方針を共有している。	「看取り」を想定した支援について一部の利用者については本人・家族と話し合いを行い、方針を共有している。	「看取り」を想定した支援についての早い段階からの本人・家族との話し合いと方針の共有
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員対象の応急手当や初期対応の訓練は現状実施できておらず今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練やBCPの研修会等を通して、火災や地震、水害等の災害に備えている。	定期的な防災訓練やBCPの研修会等を通して、火災や地震、水害等の災害に備えている。	定期的な防災訓練やBCPの研修会等の継続と地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「○○さん」を基本として、ご本人の人格を尊重した言葉掛けや対応を行っている。	「○○さん」を基本として、ご本人の人格を尊重した言葉掛けや対応を行っている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の実践継続

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望をできる限り汲み取ることを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人手やスケジュールの制約はあるが、可能な範囲で一人一人のペースを尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	面会や外出時には特に、身だしなみやおしゃれに気を配って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	季節や行事にちなんだ食事を楽しめるよう、職員が支援している。	季節ごとの行事にちなんだ食事を楽しめるよう、職員が支援している。	食事を楽しむことのできる支援の継続
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量、水分量を記録し、十分な栄養摂取や水分量確保ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持を図っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はリハビリパンツ着用でトイレに定時誘導することを基本に、一人一人の排泄の状況に応じた支援を行っている。	日中はリハビリパンツ着用でトイレに定時誘導することを基本に、一人一人の排泄の状況に応じた支援を行っている。	一人一人の排泄の状況に応じた支援の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のために飲食物の工夫や運動への働きかけをはじめ、必要に応じて便秘薬や整腸剤の使用をかかりつけ医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スケジュールや人手の制約はあるが、週2回以上、可能な範囲で入浴の支援をしている。	スケジュールや人手の制約はあるが、週2回、可能な範囲で入浴の支援をしている。	入浴を楽しむことができる支援の継続
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や居室などの環境を整え、安眠や休息が確保できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に一人一人の薬の効果や副作用、用法や用量を確認し、症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーション、外出等を通して役割、楽しみごとの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策や人手等の制約はあるが、ご本人や家族の希望があれば可能な限り外出支援を行っている。	感染症対策や人手等の制約はあるが、ご本人や家族の希望があれば可能な限り外出支援を行っている。	日常的な外出支援の実践と継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族や預かり金が基本だが、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの希望や力に応じて、本人自らが電話をしたりできるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は自然を適度に取り入れ、快適に過ごせるように工夫されている。	共用の空間は自然を適度に取り入れ、快適に過ごせるように工夫されている。	居心地の良い共用空間づくりへの工夫の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でその利用者の性格や状況、利用者同士の相性に配慮して居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室、泊まりの部屋はプライバシーを確保して快適に過ごせる工夫がされている。	居室、泊まりの部屋はプライバシーを確保して快適に過ごせる工夫がされている。	居室、泊まりの部屋についてプライバシーを確保して快適に過ごせる工夫の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全な範囲で自立した生活が送れるように工夫されている。		

2026/05/22/金 19:00 心の駅 FAX番号:0246-54-5001 P.010

別紙2

目標達成計画

事業所名　株式会社こころの駅看護小規模多機能型居宅介護事業所

作成日：令和　8 年　5 月　21 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	43	排泄の自立支援について、一部の利用者で排泄の失敗やオムツ使用の増加がある	利用者ごとの排泄の力やパターンを見極め、排泄の失敗やオムツ使用の枚数を減らす	オムツの使用枚数の確認と、排泄パターンの確認、トイレ誘導時間や回数の再検討	3ヶ月
2	39	役割、楽しみごとの支援について、あまり行事やレクリエーションが実施できていない	定期的に行事やレクリエーションを実施し、楽しみごとの支援を行う	季節の行事(月に1回程度)や、レクリエーションの充実	6ヶ月
3	34	身だしなみやおしゃれについて、面会や外出時以外は十分な支援が行き届いていない時がある	平常時からその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援する	定期的な衣服と、爪や髪、髭の確認とケア	6ヶ月
4	2	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援について、一部のご本人・ご家族以外には進んでいない	「看取り」を想定した支援について本人・家族と話し合いを行い、方針を共有する	サービス担当者会議や居宅サービス計画書の交付の際、看取りを想定した支援についてご本人やご家族と方針を共有、文書で残す	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

2026/05/22/金 19:00　心の駅　FAX番号:0246-54-5001　P.011